

梓川かゆきものがたり (島内編)



島堰旧取入れ口跡碑（倭橋上流）

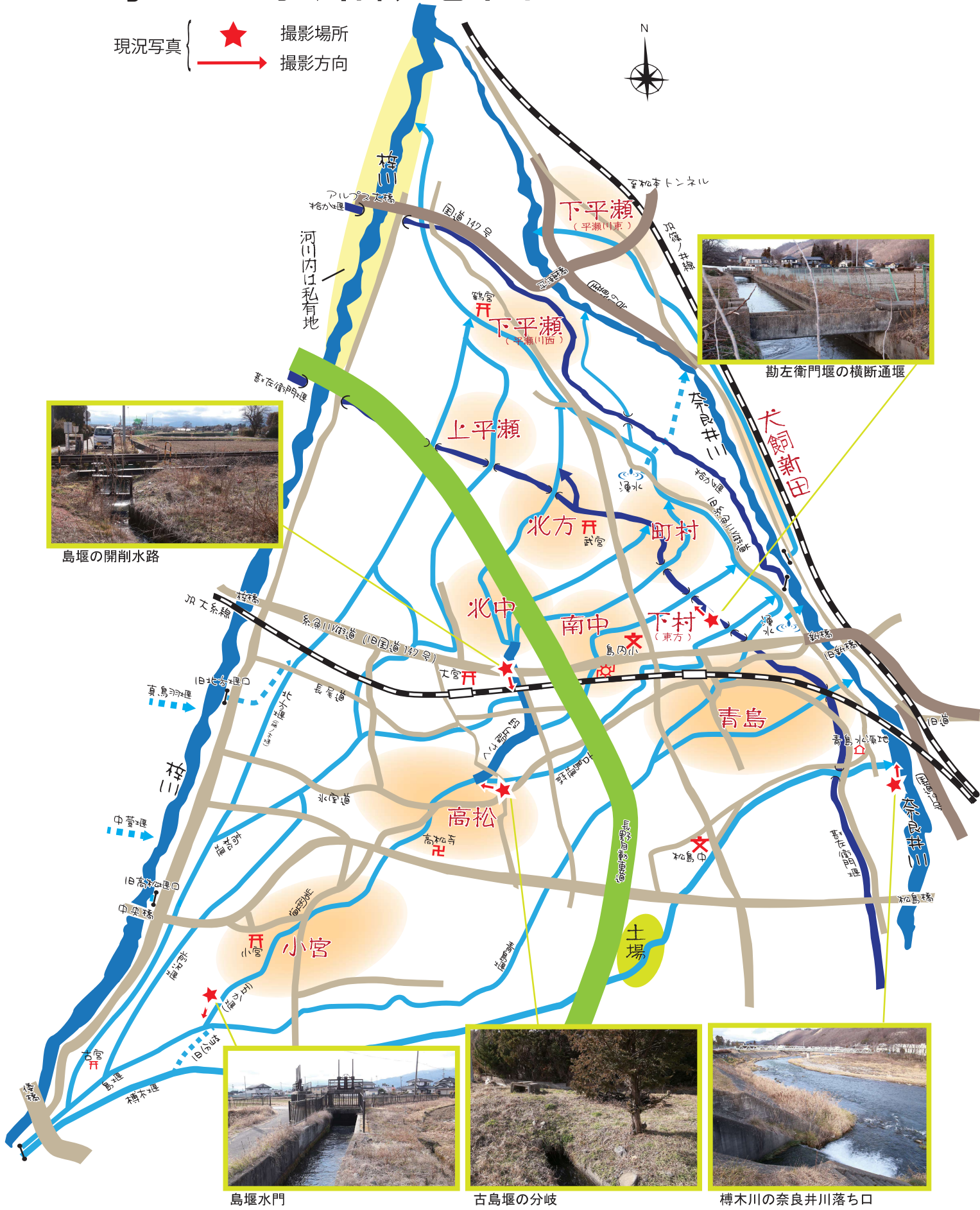
江戸時代の島内は安曇郡成相組に属し、梓川の堰筋は右岸（筑摩郡）の堰グループに位置し、梓川本川から島堰・高松堰・北方堰の3堰が取水する。

作成 島内史談会

令和4年5月

1 島内の水路概念図

現況写真 {  撮影場所
 撮影方向



島堰の開削水路

勘左衛門堰の横断通堰

島堰水門

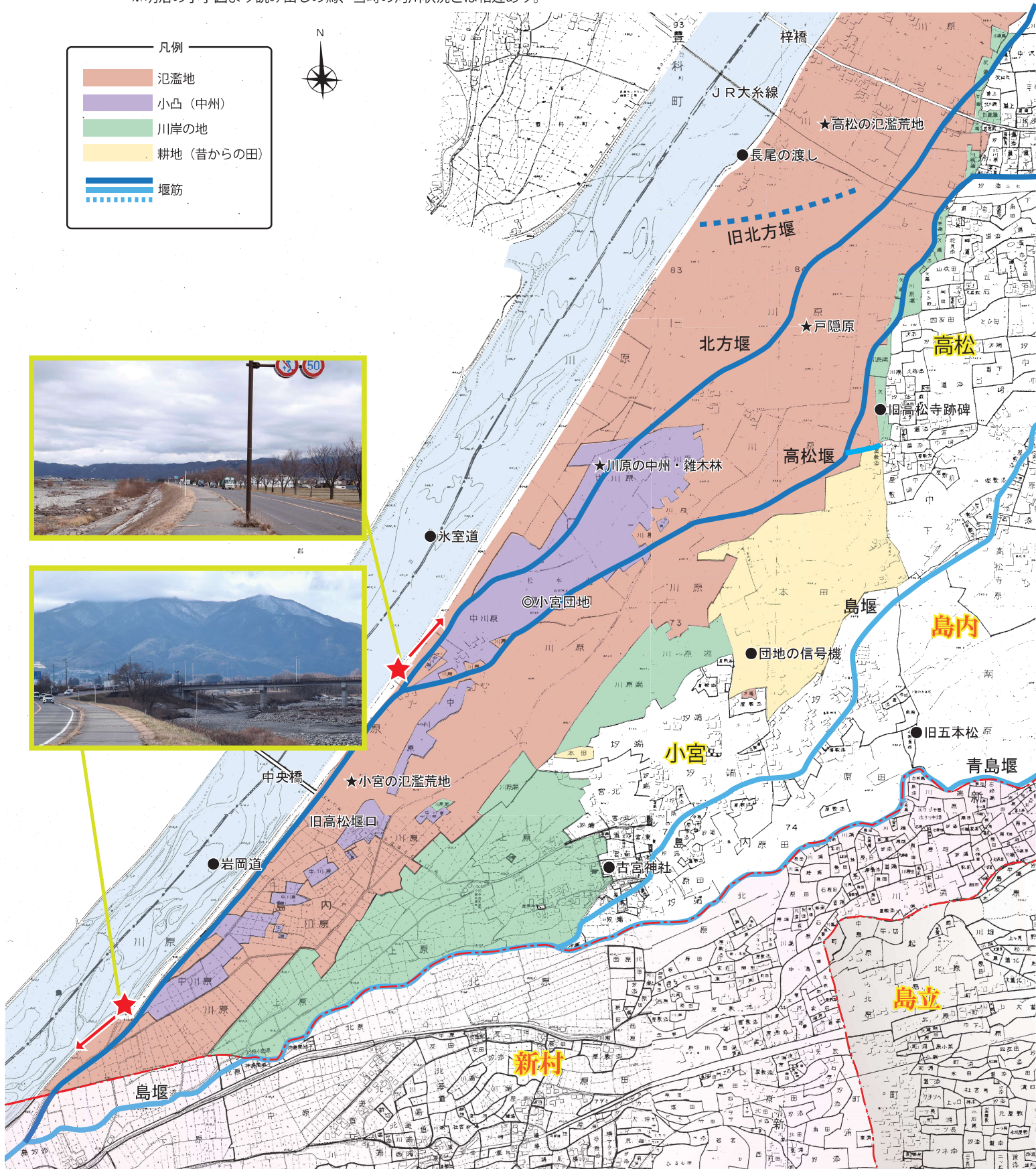
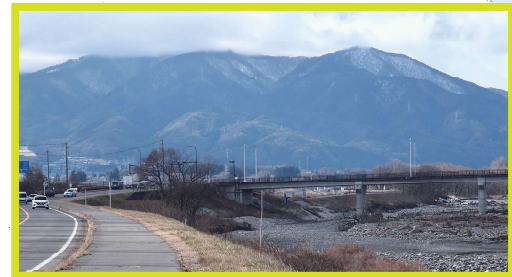
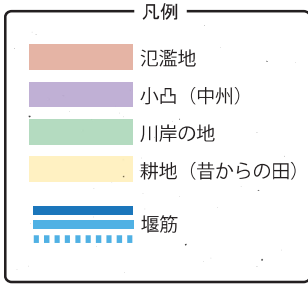
古島堰の分岐

樽木川の奈良井川落ち口

2 梓川氾濫原の今昔

(小宮・高松の一部)

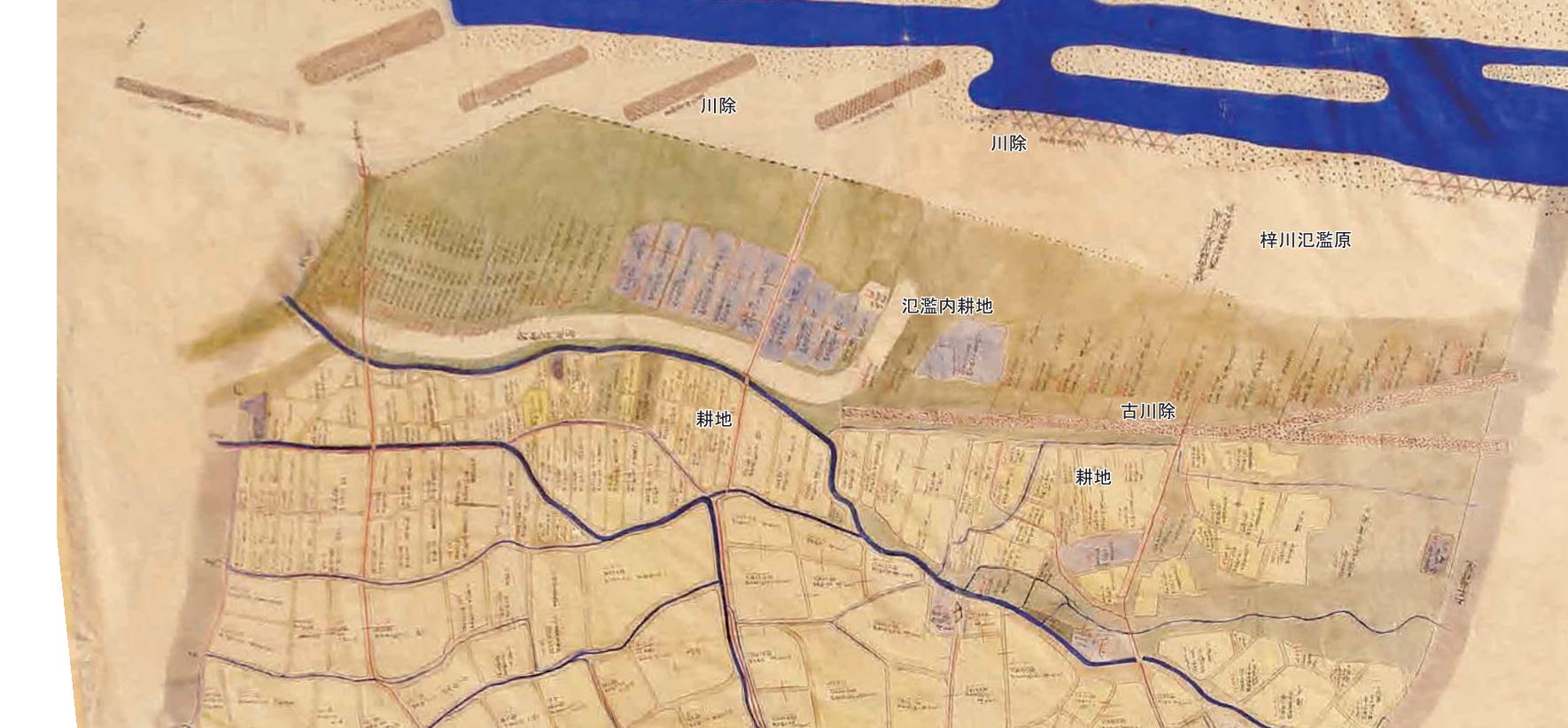
※明治の小字図より読み出しの為、当時の河川状況とは相違あり。



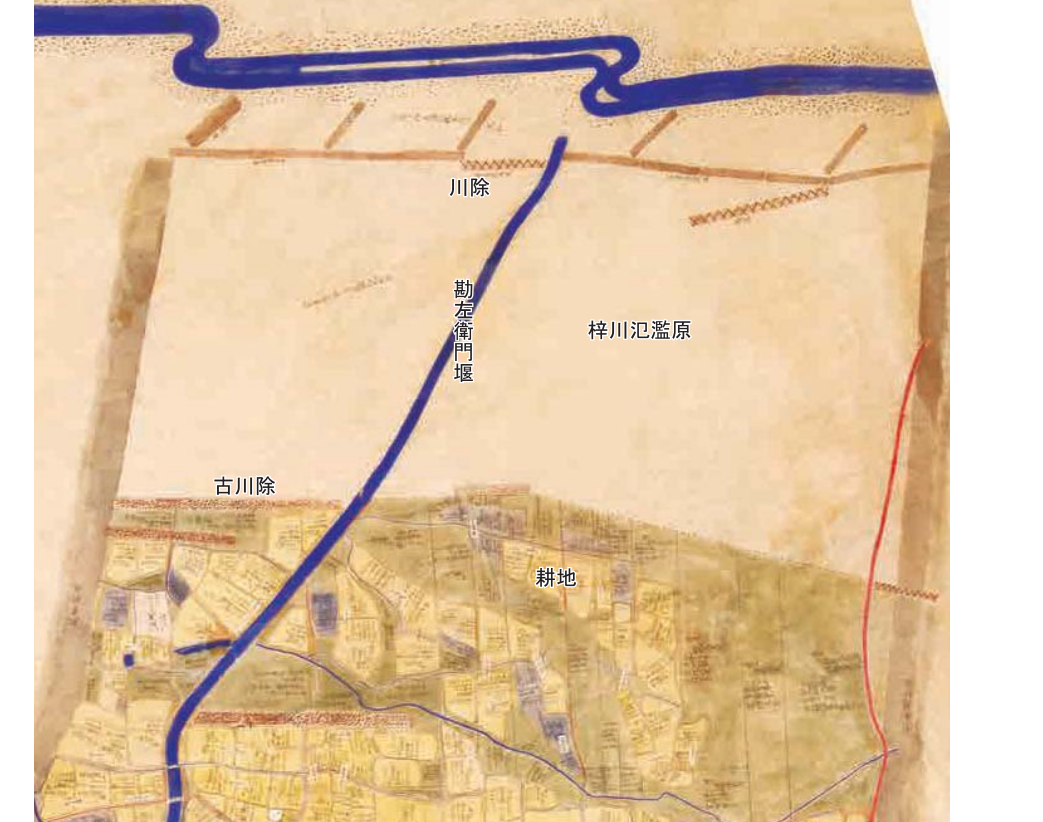
3 島内村々の川除



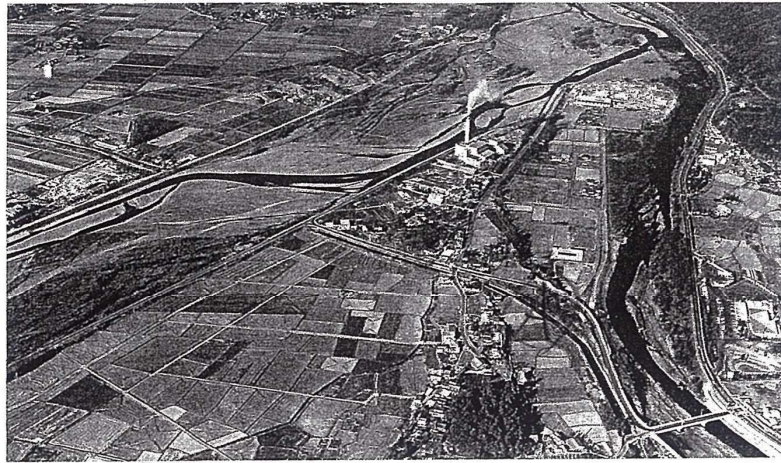
北方村の地引絵図抜粋 明治6年



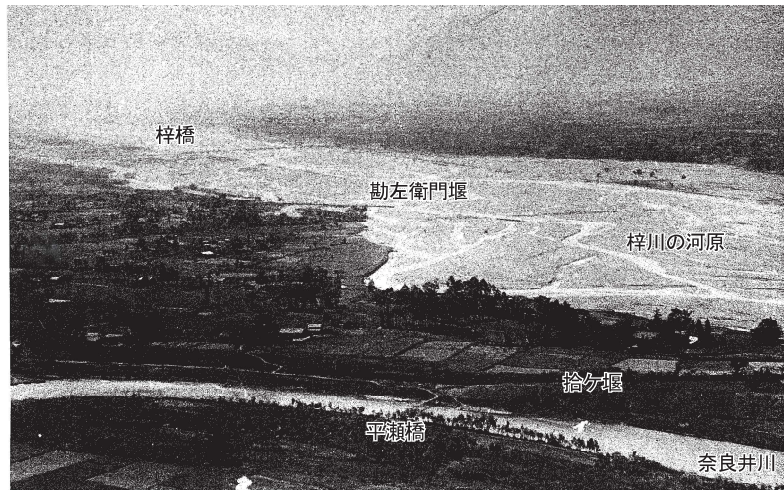
上平瀬村の地引絵図抜粋 明治6年



4 下平瀬河筋の変移



島内平瀬の梓川合流点 昭和 59 年



島内平瀬の河原 明治 25 年 写真師 / 堀里高政氏



5 川除工事図抜粋 天保14年



島堰

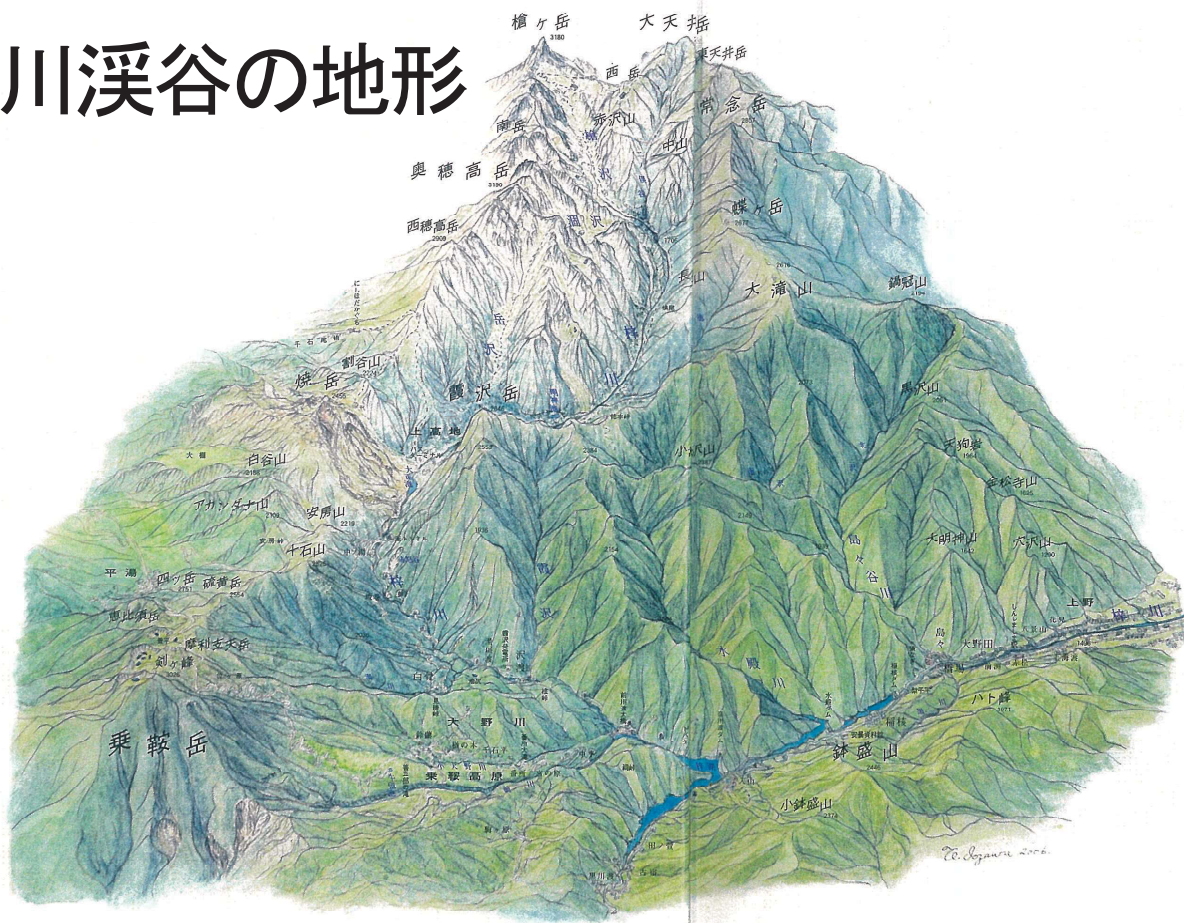
飛驒道

千国道

高松堰

水室道

6 梓川溪谷の地形



7 梓川の氾濫出水被害抜粋・等

区 分		梓川の河川状況			石高の変遷(石)				
和暦	西暦	概況等	梓川の河川状況	被災想定	小宮	高松	北方	上平瀬	下平瀬
天正12	1558		焼岳大噴火、泥流神坂地区へ流下						
天正18	1590	天正検地		* 犬飼合村	206	犬飼村	犬飼村	203	467
慶長19	1614	松本領郷村惣寄帳		* 犬飼郷村	262	犬飼村	犬飼村	252	579
寛永19	1642	松本領村々高附帳			212	603	487	215	606
寛文2	1662	勘左衛門堰を開く	* 上平瀬より梓川横断						
延宝2	1674		満水、和田堰大口が埋まる	◎					
元禄8	1693	村々石高帳			217	452	370	76	563
宝永7	1710		洪水、真々部史より	◎					
享保9	1724	村々石高(信府統記)			245	508	408	99	643
享保20	1735		山崩れ、上高地温泉付近へ押出						
元文3	1738		4~6長雨、和田堰口へ切れ込み	◎					
寛保1	1741		洪水、中曾根川へ切れ込む	◎					
延享3	1746		焼岳噴火、大地震						
宝暦7	1757	平瀬・熊倉橋落ちる	梓川5/10小宮洪水~宮瀬へ流下	◎					
同年		大風雨	鳥居山崩れ犬飼新家屋流失						
明和5	1768		満水、三溝水害	◎					
安永3	1774		水害、小宮・新村境界争い						
天明5	1785		満水、新村・和田堰口埋まる	◎					
寛政1	1789	熊倉橋落ちる	満水、新村・和田堰口埋まる	◎					
寛政2	1790		満水、和田堰口変地	◎					
寛政3	1791		洪水、波田牧ノ内へ切れ込む	◎					
寛政9	1797	松本藩川除規定を設	堰口の村々管理						
寛政11	1799	梓川川除人寄大普請	波田村の川添						
文化13	1817		満水、淵東島被災	◎					
文化14	1818	十か堰完成	* 下平瀬より梓川横断						
文政5	1822		満水、和田堰上げ口流失	◎					
文政10	1827		満水、上波田・田地流失	◎					
文政11	1828		満水、淵東島家屋流失	◎					
文政13	1830		氾濫、新村・淵東島田畑流失	◎					
天保3	1833	信濃十郡高付帳	氾濫、波田・田畑流失	◎	330	519	404	101	720
天保4	1834		氾濫、波田・田畑流失	◎					
天保6	1836	寄夫御普請下見目論見帳	▲小宮・高松川除の計画						
天保7	1837	凶作飢饉	氾濫、波田・田畑流失	◎凶作あり					
天保12	1842		満水、新村堰口破損	◎					
天保13	1843	寄夫御普請目論見帳	▲小宮・高松川除の実施計画						
天保14	1844	寄夫御普請の実施	▲川除実施(川除墨引き絵図面)						
弘化4	1847	善光寺地震	善光寺平の大洪水	地震被災少					
嘉永1	1848		満水、樽木川破損、	◎					
嘉永2	1849		満水、新村堰口破損	◎					
嘉永3	1850	熊倉橋落ちる	満水、5/18赤松・小宮切れ込	◎					
同年		島内村内古文書			350	644	404	100	717
安政2	1855	両郡村々明細帳			406	678	404	110	717
安政6	1859		満水、左右岸の村々洪水	◎					
万延1	1860	熊倉橋落ちる	満水、波田の田流失、氷室側流込	◎					
元治2	1865		満水、新村堰口埋まる	◎					
慶応1	1865		満水、安曇真々部・中曾根へ流下	◎					
慶応4	1868		満水、左右両岸村々へ浸水	◎					
明治7	1874	筑摩県調書			423	684	405	100	717